

## 食事摂取速度測定法と食事の種類による違いに関する検討 という研究に参加していただける方を募集しています。

### 研究の目的：

食事を食べる速度が病気や栄養状態と結びついている可能性はあるのですが、未だ証明されていません。何らかの基礎疾患が発症した場合には、将来的に肥満や痩せなどの栄養障害が発症する恐れがあります。そのため、食事を食べる際の速度や癖を知ることによって将来の栄養障害を予防できる可能性があります。

### 募集対象：

藤田医科大学病院に勤務する教職員、学生で下記を満たす方。

1. 本研究の参加にあたり、十分な説明を受けた後に、十分な理解の上に、本人の自由意志による文書同意が得られた職員、学生
2. 同意取得時に 20 歳以上 65 歳以下の職員、学生

#### (注意)

研究への不参加あるいは途中で参加を取りやめることによって、勤務評定や学業成績などにおいて不利益な取扱いを受けることはありません。

### 協力していただくこと：

朝ごはんから 4 時間空けて、昼食として、普通市販されているピザもしくはパンケーキを食べるスピード、噛む回数を測ります。違う日に、ハンバーグ定食とサラダを食べていただきます。

サラダから先に食べる場合、ハンバーグとご飯から食べる場合の 2 回行います。なお、身長（自己申告）、体重、筋肉量、体脂肪量、血圧、握力を測定します。

募集人員：20-30 人程度

謝礼：1 回の食事につき、500 円の QIO カードを進呈します。(最大 1500 円)

連絡先：臨床栄養学講座 飯塚 勝美にメールにてご連絡ください。

メール：katsumi.iizuka@fujita-hu.ac.jp

メトロノームのリズム刺激が咀嚼テンポに与える影響に関する研究という研究に参加していただける方を募集しています。

**研究の目的：**

咀嚼は栄養素の吸収に必要な機能として知られています。咀嚼回数の増加は唾液の分泌量の増加につながる事が知られ、歯周病の予防につながるとされています。それ以外にも、頬、唇、舌の筋肉を協調させるため、脳へ刺激を与えることで、認知症予防になると言われている。高齢者では咀嚼回数は低下しないものの、咀嚼テンポ（速度）が低下することが言われているものの、咀嚼テンポは体のどの部位における機能低下を反映するのかわかりません。そのため、年齢やBMIで調整したのちに、咀嚼テンポと筋肉量、筋力（握力）、身体運動能、体格、咀嚼力との関連をまず明らかにします。咀嚼テンポと身体機能や体組成との関連が明らかになれば、咀嚼テンポは、バイオマーカーの一つとしての意義を明らかにすることができます。次に、パーキンソン病では歩行訓練にて音リズム刺激が用いられることに着想を得て、メトロノームのリズムに合わせることで咀嚼テンポ、咀嚼回数が増加するかを検討します。メトロノームのリズムを早めたり、遅くしたりすることで咀嚼テンポが調節できるのであれば、音楽により試験者の食事時間を調節することが可能となります。肥満は早食いといわれるが、ゆっくりしたテンポの音楽を流すことで、食事時間を延長させることで、肥満症患者的の早食いを改善できる可能性があります。

**募集対象：**

藤田医科大学病院に勤務する教職員、学生で下記を満たす方。

1. 本研究の参加にあたり、十分な説明を受けた後に、十分な理解の上に、本人の自由意志による文書同意が得られた職員、学生
2. 同意取得時に20歳以上65歳以下の職員、学生

（注意）

研究への不参加あるいは途中で参加を取りやめることによって、勤務評定や学業成績などにおいて不利益な取扱いを受けることはありません。

**協力していただくこと：**

朝ごはんから 4 時間空けて、昼食として、普通市販されているピザ、フランスパンを食べるスピード、噛む回数を測ります。

なお、身長（自己申告）、体重、筋肉量、体脂肪量、血圧、握力、5 回椅子立ち上がり試験を測定します。食事に関する質問票により、通常の食事摂取量も測定します。食事中には影響が出るため、水分の摂取を行わないようにお願いします。

**募集人員：**30・50 人程度

**謝礼：**1000 円の QIO カードを進呈します。

**連絡先：**臨床栄養学講座 飯塚 勝美にメールにてご連絡ください。

**メール：**katsumi.iizuka@fujita-hu.ac.jp

作成日：西暦 2024 年 7 月 3 日 (第 3 版)

西暦 2023 年 5 月 7 日 (第 2 版)

西暦 2023 年 1 月 16 日 (第 1 版)

## 研究に関するホームページ上の情報公開文書

**研究課題名：**若年低体重女性における栄養状態の実態調査

本研究は藤田医科大学の医学研究倫理審査委員会で審査され、学長の許可を得て実施しています。

### 1. 研究の対象

2022 年度職員健診で低体重 (BMI<17.5) を指摘され、藤田医科大学病院栄養評価外来に紹介された患者 (2022 年 11 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までに初診で受診された方で男女含む)

また、2012 年度から 2022 年度の職員健診を受診した 20 歳から 65 歳までの男性および女性の方。

### 2. 研究目的・方法・研究期間

現在、モデル体型として若い女性の間でシンデレラ体重という言葉が飛び交っています。

シンデレラ体重とは BMI 18 の人を指しますが、一般的には低体重とされる体重です。

しかし、若い女性の低体重は社会問題になっており、不妊、将来の糖尿病発症、骨折などのリスクを抱えることとなります。しかし普通は病院受診のきっかけが無いので、実態は不明な点が多いです。そのため、当院の検診で BMI<17.5 の方を対象に、栄養状態、ビタミン欠乏症の頻度、体組成について調査します。

方法は、カルテを用いて下記の情報を収集し、ビタミン欠乏の比率、低栄養の重症度、体組成の実態について調べます。期間は研究が承認されてから、2027 年 3 月 31 日までです。今年度の職員健診を受診した 20 から 40 歳までの女性 (BMI、握力、血圧、HbA1c、総コレステロール、リンパ球数) 及び男性 (BMI、年齢) の方については、名前がすでにわからない状態で健診受診時の情報を提供いただき、正常範囲の設定に利用します。また、2012 年度から 2022 年度の職員健診を受診した 20 歳から 65 歳まで男性および女性の方について、年齢、性別、BMI、身長、体重とともに、栄養マーカー (総コレステロール、リンパ球数、ヘモグロビン)、代謝マーカー (HbA1c、トリグリセリ

ド、non HDL コレステロール) を名前がすでにわからない状態で提供していただき、  
経年変化を観察します。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：

- 性別、年齢、身長、体重、BMI、
- 20 歳時、1 年前の、現在の体重と BMI
- 握力（右、左）、下腿周囲長、血圧
- 体脂肪率、骨格筋量、内臓脂肪指数（Inbody で測定）
- 食品摂取頻度調査の結果（総エネルギー、各栄養素摂取量、食品摂取の頻度など）
- 下記検査データ（健診時及び栄養評価外来の紹介受診時\*）

ヘモグロビン、WBC、リンパ球数、総コレステロール、トリグリセリド、LDLc、  
HDLc、アルブミン、プレアルブミン、FT<sub>4</sub>、TSH、ビタミン B1、B12、葉酸、25OH  
ビタミン D、ALP、BAP、TRACP-5b、カルシウム、リン、クレアチニン、BUN、  
eGFR、HbA1c、CRP

\* は6ヶ月以内

- 併存疾患（低栄養の鑑別で新たに分ったものを含む）

観察時期：2022 年度健診、健診後二次検診受診後（検診から大体6ヶ月以内）。

観察期間：検診後に紹介受診され、採血結果が全て判明した時点。

2012 年から 2022 年度までの健診データ（個人がわからない状態で健康管理部より供与）  
年齢、性別、BMI、身長、体重、総コレステロール、リンパ球数、ヘモグロビン、代謝マ  
ーカー（HbA1c、トリグリセリド、non HDL コレステロール

### 4. 外部への試料・情報の提供

外部への情報の提供はありません。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理しま  
す。

### 5. 研究組織

本学の研究責任者：

藤田医科大学 臨床栄養学講座 教授 飯塚勝美

### 6. 除外の申出・お問い合わせ先

試料・情報が本研究に用いられることについて研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合には、研究対象から除外させていただきます。下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも、お申し出により、研究の対象となる方その他に不利益が生じることはありません。さらに、研究への不参加あるいは途中で参加を取りやめることによって、勤務評定などにおいて不利益な取扱いを受けることはありません。

なお、健康管理部より提供いただく 20 歳から 65 歳の男女のデータに関してはすでに匿名化された後のデータで個人が特定できないため、研究参加拒否の申請があっても削除できません。

この研究は、企業等からの資金提供は受けていません。また、この研究に関連する企業と研究者等との間に、開示すべき利益相反はありません。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

藤田医科大学 臨床栄養学講座

担当者：飯塚 勝美

愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98

電話 0562-93-2329

e-mail:katsumi.iizuka@fujita-hu.ac.jp

作成日：西暦 2024 年 1 月 12 日

## 研究に関するホームページ上の情報公開文書

研究課題名：食事調査に基づくビタミン欠乏とその原因の実態調査

本研究は藤田医科大学の医学研究倫理審査委員会で審査され、学長の許可を得て実施しています。

### 1．研究の対象

2021 年 12 月から 2023 年 11 月に藤田医科大学病院 国際医療センターで検診を受けた方

### 2．研究目的・方法・研究期間

目的

藤田医科大学病院 国際医療センターの検診では、ビタミンの測定だけでなく、口腔評価、内服薬（制酸薬、糖尿病薬）、内分泌機能（甲状腺）、ピロリ抗体、胃内視鏡の検査を同時に行なっているため、この研究では、ビタミン欠乏の頻度および原因の実態調査を行います。

方法

カルテからビタミン濃度、内服薬の情報、口腔機能評価、内分泌機能（甲状腺）、ピロリ抗体などのビタミン欠乏の原因がビタミン欠乏の有無でどう変わるかを調べます。またロジスティック回帰分析を行い、上記の原因がどのようにビタミン欠乏に寄与するかを明らかにします。

研究期間

承認日～2027 年 1 月 31 日

### 3．研究に用いる試料・情報の種類

情報：内服薬、既往歴、アルコール摂取量、サプリメントの服用歴、カルテ番号、血液検査データ（ビタミン B1、B12、25OHD、TSH、FT4、アルブミン、プレアルブミン、CRP、リンパ球数、コレステロール、Conut Score）、口腔フレイル検査、義歯の本数

### 4．外部への試料・情報の提供

なし

## 5 . 研究組織

本学の研究責任者：藤田以下大学医学部臨床栄養学講座 教授 飯塚勝美

## 6 . 除外の申出・お問い合わせ先

情報が本研究に用いられることについて研究の対象となる方もしくはその代諾者の方に  
ご了承いただけない場合には、研究対象から除外させていただきます。下記の連絡先までお  
申し出ください。その場合でも、お申し出により、研究の対象となる方その他に不利益が生  
じることはありません。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範  
囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

藤田医科大学 医学部 臨床栄養学講座

担当者：飯塚 勝美

愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98

電話 0562-93-2329

e-mail:katsumi.iizuka@fujita-hu.ac.jp

この研究は、企業等からの資金提供は受けていません。また、この研究に関連する企業と  
研究者等との間に、開示すべき利益相反はありません。



HM23-111 健診受診者における食品頻度摂取調査と食事記録アプリの比較検討の研究に参加された皆様へ

**酢酸摂取量の実態調査及び各種栄養素摂取量、体組成の関連についての検討という研究を行います。**

#### 研究の目的：

我々は酢酸自体の効果よりむしろ“酢酸”を使った料理の持つ食品には栄養素の多様性があり、これが栄養状態に影響するのではないかと考えました。

また、従来の食品摂取記録調査では調味料での酢酸摂取量しか評価できず、食べ物に入っている酢酸量を推定することは困難だったので、我々が開発した7日間の食事記録アプリでの記録により食事摂取量を評価する方法を利用して、酢酸摂取量と食物繊維などの各種栄養素、食品多様性との関連を明らかにします。酢を使った料理の摂取量から、食品多様性が類推できるのであれば、食事記録アプリへ表示し、酢を使った料理の摂取を促すなど簡便な栄養指導の創出につながると考えました。

本研究では150名の方に食事記録アプリでの測定を行いますが、大変人手も手間もかかる研究であるため、HM23-111研究の結果(59名)を部分的に二次利用します。

対象者は以下のとおりです。

\* 新規に食事記録アプリの記録及びBDHQを行う方 150名

\* 以前の研究でBDHQと食事記録アプリを行った方 59名(承認番号HM23-111)

この文書は、以前の研究でBDHQと食事記録アプリを行った方 59名(承認番号HM23-111)を対象にしたものです。

HM23-111研究に参加された方に関して、情報を利用するのは以下のとおりです。

#### 研究の概要、試料・情報の利用目的及び利用方法

2022年度に実施した食事記録アプリと食物頻度摂取調査(FFQ、BDHQ)の試験結果を標準データとして再利用します。

#### 利用し、又は提供する試料・情報の項目

年齢、性別、身長、体重、BMI、握力

健診時採血データ(Hb、HbA1c、T-Chol、TG、HDLc、non HDLc、リンパ

球数)

BDHQ 及び食事記録アプリにおける栄養素及びエネルギー量

項目：エネルギー量、酢酸摂取量、炭水化物、脂質、たんぱく質、各種  
ビタミン摂取量、飽和および不飽和脂肪酸量、コレステロール、n-3 系及  
び n-6 系不飽和脂肪酸、食物繊維(水溶性、不溶性、総量)、食塩、Fe、  
Ca)、アルコール摂取量、及び食品多様性スコア(DVS)

利用する者の範囲

20-60 歳の当大学の教職員

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

藤田医科大学 臨床栄養学講座 教授 飯塚勝美

研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・  
情報の利用又は他の研究機関への提供を停止すること。該当者でこの研究で  
使用したくない人は申し出ていただき、データから除外することが可能です。

の研究対象者又はその代理人の求めを受け付ける方法、及び相談窓口

藤田医科大学臨床栄養学講座 教授 飯塚勝美

メール：katsumi.iizuka@fujita-hu.ac.jp 電話：0562-93-2329

研究機関の名称並びに研究機関の長及び研究責任者の氏名

研究機関の長:藤田医科大学 学長 湯澤由紀夫

研究責任者：藤田医科大学臨床栄養学講座 教授 飯塚勝美

## 揭示文書

### 入院中食事アンケートを用いた食欲低下に関連する因子 の同定に関する横断的観察研究

低栄養リスク患者の早期発見、早期栄養介入を目的とした研究  
についての案内です。

研究期間：倫理審査委員会承認日～2027年3月31日

研究対象の期間：2022年1月1日・2026年3月31日

#### 研究の概要、試料・情報の利用目的及び利用方法

皆さんが入院中に提出された、食事満足度調査(食事に関するアンケート調査)を二次利用し、食欲が低下している人の原因を調べる研究をしています。結果を用いて、食欲低下をきたしやすい人を割り出し、早めに管理栄養士が食事の提案をすることを目指します。また、食欲低下と食事の満足度との関係を調べます。

**なお、全て匿名のデータを利用するため、どの方のデータを利用したかを確認する手段がないので、申し出ても研究データから削除することはできません。**

#### 利用し、又は提供する試料・情報の項目

アンケートは無記名で、アンケートで聞かれた結果(年齢、性別、入院期間、食種、入院病棟及び体格の情報(BMI)、食欲低下の原因(味覚障害、下痢、便秘、嘔吐、歯の痛み、全身の痛み、発熱、口内炎)、食事満足度

#### 利用する者の範囲

藤田医科大学病院の入院患者で、食事満足度調査に答えていただいた患者

#### 試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

藤田医科大学 臨床栄養学講座 教授 飯塚 勝美

研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される情報の利用又は他の研究機関への提供を停止すること。

#### 該当しない

なお、研究にかかる費用は学内の講座研究費により支払い、外部からの資金提供はありません。

**研究資金：** 本学内の講座研究費を使用する。外部の研究資金を受けない。

**物的・人的支援：** 外部の物的・人的な支援を受けない。

**利益相反：** 研究責任者と研究分担者に、本研究に係わる開示すべき利益相反はない。藤田医科大学利益相反委員会へ申請を行い、利益相反マネジメントを受ける。

#### 相談窓口

藤田医科大学医学部臨床栄養学講座 教授 飯塚勝美

電話：0562-93-2329

メールアドレス：katsumi.iizuka@fujita-hu.ac.jp

研究機関の名称並びに研究機関の長及び研究責任者の氏名

研究期間の長：藤田医科大学 学長 湯澤由紀夫

研究責任者：藤田医科大学 医学部 臨床栄養学講座 教授 飯塚勝美